

OKoTaC 通信

オコタック

2017年10月30日発行

NO.37



P 2 NPO活動報告

連続セミナー『最近気になる国・地域からの子どもをめぐって〈ベトナム編〉』

P 3 多文化な子ども@大阪のニュース(1)

『多文化フォーラム～二胡の調べにのせて～』

P 4 地域の子どもの支援教室から㉗

外国にルーツを持つこどもの居場所『TBY-To Be Yourself』(池田市)
お知らせ

『TABUNKA SHINGAKU JUKU (たぶんか進学塾)生徒募集』

P 5 Air Mail メキシコ便り㉕

『グアテマラ、ホンジュラス(1)』

P 6 多文化な子ども@大阪のニュース(2)

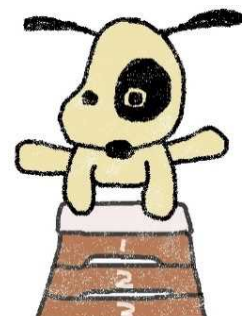
『ワールドトーク(多文化スピーチ大会)』

研修会『“国際結婚”について考える』

P 7 大阪府立高校の特別枠校紹介㉗

大阪府立東淀川高等学校(大阪市淀川区)

P 8 イベント情報





おおさかこども多文化センター 活動報告



第3回 外国にルーツをもつ子どもの教育支援連続セミナー 『最近気になる国・地域からの子どもをめぐって <ベトナム編>』

今年度のヒューライツ大阪との共催セミナー(全3回)は標記のとおり「外国にルーツをもつ子どもの教育支援連続セミナー」として、これまで<ネパール編><ムスリム編>を開催してきました。今回は9月2日(土)に<ベトナム編>を開催。学校関係者を中心として31名の参加があり、八尾で外国につながる子どもたちを支援する「トッカビ」の代表理事・朴洋幸さん、八尾市立高美南小学校言語介助員のヴー ティトゥ タオさんがお話しをしてくださりました。参加者のお一人、植松夕紀子さんのレポートです。 (Y.H)

.....



最初に、八尾市のベトナム人コミュニティについての、朝日放送『キャスト』(昨年6月放送)の映像を見て、朴洋幸 代表理事からお話をいただきました。在日コリアンの支援を目的として設立されたトッカビは、1994年にニューカマーを含む外国ルーツの子どもへの支援を始め、母語を学ぶルーツ語(継承語)教室、中学・高校生の学習支援教室等を開催しています。

在日コリアンに対する取り組みが大阪府内の中でも進んでいた八尾市では、ニューカマーに対しての取り組みも他市より進んでおり、早い時期から、来日した子どもへの日本語指導、民族クラブやルーツ語教室、多言語での相談事業が実施されてきました。朴さんはこの25年間で八尾市内小・中学校のベトナム人児童数が約8倍となった経緯や、トッカビのさまざまな活動について話されました。

続いて、2児の母で、小学校でベトナム人児童の支援に携わるタオさんに、子育て中のご自身の経験も交えて、お話しをいただきました。ベトナムでは運動場やプール、給食がある学校は少ないので、給食や運動会については保護者に特に丁寧に説明する必要があるそうです。またベトナムの学校では、小学生でも学校にお金を持って行き、休み時間におやつを買って食べたりするので、日本では入学時に「学校に持ってきてはいけないもの」について、きちんと説明することも大事とのことでした。

また、「ベトナムにルーツを持つ子ども」と一口にいいますが、在留資格ひとつとっても、難民、国際結婚、技術・人文知識・国際業務での在留資格と、保護者の背景によって子どもそれぞれの課題が異なります。そこでまず、その子どもがどのような形で在住しているかを知ることが大切だと述べられました。例えば、難民として来日した保護者はベトナムに対して、「自分の母国」という捉え方はしていないが、子どもにはベトナム文化を伝えたいと考えているという保護者の複雑な気持ちを理解する必要があります。そして、そのため民族クラブの活動でも配慮が必要で、「愛国心」を養うというよりも、まず「親近感」を持てるように工夫されているとのことでした。しかし、残念なことですが、夢も目標もなく、努力する気持ちを持ってない子どもも多いとタオさんは語ります。



このセミナーを通して、「どんな国の子どもでも、チャンスは同じだ、子どもに夢を与えるのは私たちの仕事」というタオさんの言葉にうなずき、「自分のルーツを大事に、ありのままの自分で生きることができる社会を目指す」というトッカビの活動に感銘を受けました。そして、この場はこれから私たちがすべきことについて、強く再認識させられたセミナーとなりました。この日本で子どもたちがありのままの自分を見せながら生きることが難しいのは、今の日本社会の側に問題があるのであり、彼ら・彼女らがルーツを大事にした生き方ができる環境を作るため、講座に参加したみんなで連携し、今後もさらなる活動を続けていきたいと強く感じました。

.....



コーヒー生産量は世界第2位

(植松夕紀子)



『多文化フォーラム～二胡の調べにのせて～』(多文化共生センター大阪)

多文化共生センター大阪 サタデークラス

栗山智帆

8月20日(日)、道仁連合会館にて、「多文化フォーラム～二胡の調べにのせて～」を開催しました。真夏の暑い中、高校生から元教師まで、スタッフも含め40名ちかくが参加しました。



第1部では、中国出身の張鶴さんに二胡を演奏していただきました。張鶴さんは15歳の時に来日し、当時は日本語が分からず、友達もできなかったそうです。そんな時の支えになったのが、二胡でした。二胡の心にしみる音色と、張鶴さんの歩んできた道のりに思いをはせ、感極まる思いでした。

第2部では、ファシリテーターにコリア NGO センターの金光敏さんをお迎えし、3人の元子どもたちのライブストーリーに耳を傾けました。

まず1人目は、ネパール出身のラクシミさん。ラクシミさんは、15歳の時に来日し、日本の高校に入りました。ネパール人はとてもフレンドリーなのに、日本人は友達との距離間があるということに、初めは戸惑ったそうです。それでも、持ち前の明るさで、周りを巻き込みながら、日本語も一生懸命勉強し、大学へ進学。現在は、日本語と英語を生かして、外資系のホテルに勤務し、充実した毎日を送っているそうです。

2人目は、フィリピンにルーツを持つ貴子さん。貴さんは、日本生まれで、小学生の時にフィリピンへ行き、大学生になるまで過ごしました。フィリピンへ行った時は、言葉は分かるものの、読み書きができず苦労したそうです。それでも、日本と比べると、フィリピンの生活は「パラダイス」だと語っていました。日本に帰ってきてからは、友達もなかなかできないでいますが、アルバイトをしながら、将来を模索中ということでした。



最後は、ブラジル人日系3世のレアンドロさん。12歳で来日し、中学校では遊んでばかりで、高校を選べなかったことや、高校も1年長く在籍したことなどを話してくれました。高校

卒業後は、大阪モード学園に進学したものの、経済的事情により中退。その後、縁あって、TV局で撮影スタッフとして勤務し、今は独立、起業した会社で映像作りに取り組んでいるそうです。もし当時、同じ境遇で頑張り、活躍できている先輩に会えていたら、進路についてもっときっちり考えることができていたのに、という思いから、同じ境遇にある子どもたちに、先輩として活躍している姿を見せたいと、力強く語ってくれました。

金光敏さんの軽快なファシリテーションのもと、笑いあり、涙ありの楽しい時間となりました。最後は、彼、彼女らの今後の活躍を楽しみに見守ることを誓って、多文化フォーラムを閉会しました。



編集部より

私も参加させていただきました。多くの参加者で会場は埋まり、素晴らしい二胡の演奏に聞きほれながら、終始和やかな雰囲気では進みました。栗山さんもおっしゃっているようにユーモアを交えつつ、自らのことを力強い語りで振り返った元子どもたち。聞かせてもらっているこちらにも力をもらいました。(Y.H)



外国にルーツを持つこどもの居場所 **TBY-To Be Yourself** (池田市)

2015年11月に設立された池田市国際交流センターは、2016年7月から外国にルーツを持つこどもの居場所「TBY」事業を開始しました。TBYは「To Be Yourself」の略語で、「ありのままの自分でいてほしい」という思いをこめて名づけられました。



毎週土曜日(第2土曜日、祝日はお休み)午前10時から11時40分まで、池田市保健福祉総合センター内で、市内の小・中学校やインターナショナルスクールに通う10名の子どもたちを、8名のボランティアスタッフが、にほんご学習や学校の宿題などを個別に指導しています。

基本的に同じスタッフが同じ子どもを担当するようにしていますが、欠席の場合は別のスタッフが対応します。スタッフはTBY終了後に学習報告書に、その日の指導についてコメントを書きます。

90分の学習時間内には10分間の休憩があり、おやつ時間を設けています。子どもたちは持ってきたおやつを食べながら歓談したり、遊んだりしています。

また通常の学習とは別に、年3回程度「TBY Fun Day」というお楽しみ会を開いています。これまで調理室でホットドッグ、カレーライス、バナナマフィンなどを作りました。今後は保護者の協力を得て、各国の料理やお菓子作りをしたいと思っています。

そして、月に1回ですが、活動終了後にスタッフミーティングを行い、子どもたち一人ひとりの様子、学習状況について情報交換したり、教材、指導法について話し合ったりしています。また送り迎えをしている保護者とは、子どもたちの様子について話をしたり、いろいろな相談を受けたりしています。

池田市も近年、外国人の転入が増え、外国にルーツを持つ子どもたちの数も増えてきました。今後は子どもたちが通っている学校の教頭先生や担任の先生との、子どもたち一人ひとりの学校での様子などの情報交換の機会を増やし、TBYでの学習に役立てたいと思います。(山田撮影)

対象：日本語を母語としない、または両親(のいずれか)が外国出身で、日本語支援が必要な池田市在住の小学1年生～中学3年生

内容：日本語学習、教科学習

時間：毎週土曜日(第2土曜日、祝日はお休み)10:00～11:40

場所：池田市保健福祉総合センター

〒563-0025 池田市城南3-1-40 池田市保健福祉総合センター2階

問い合わせ：池田市国際交流センター

TEL：072-735-7588 (9:00～17:00) ※第2土曜、日曜休館

E-mail：imc20151101@gmail.com ※ボランティアスタッフ募集中です。



TABUNKA SHINGAKU JUKU (たぶんか進学塾) 第5期生 生徒募集

TABUNKA SHINGAKU JUKU は外国にルーツをもつ子どものための学習塾です

【場所】大阪市西区新町1丁目12-23 イサオビル4F

地下鉄四つ橋線「本町」駅22・23番出口 徒歩5分

「四ツ橋」駅2番出口 徒歩5分

【お問い合わせ】 TEL: 06-6390-8201、090-8199-5908 (坪内) 両方とも日本語

Email: osaka@tabunka.jp

特定非営利活動法人 多文化共生センター大阪





海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便り③ 「グアテマラ、ホンジュラス(1)」

(おおさかこども多文化センター会員 金野広美)

メキシコにいる間に少しでも中南米の国々を見ておきたいと、夏休みに入るとすぐ、グアテマラ、ホンジュラス、ベリーズ、エルサルバドルと中米4国を回ることになりました。今月はそのうちのグアテマラ、ホンジュラス編です。

まずグアテマラ空港から直接、コロニアルの街・アンティグアに行きました。ここは3つの火山に囲まれているため地震が多く、1543年から1773年まで首都として栄えたのですが、あまりの地震被害続出にグアテマラ・シティーに首都が移されてしまったというところ。古い街並みが世界遺産に登録されているのですが、いまだに修復中の建物や地震の廃墟がそのまま観光名所になっていたりします。

アンティグアからホンジュラスのコパン遺跡に1泊2日のツアーがでているので、2年前のホンジュラス旅

行では行けなかったコパンに行くことにしました。折りしもホンジュラスでは6月28日に軍事クーデターが起こっていたので、当初は行くことを迷ったのですが、いろいろ情報を集めてみると、首都のテグシガルパでは集会やデモなどしているようですが、地方はほとんど何の動きもなく静かだというので行ってみることにしたのです。



アンティグアからはバスで7時間、朝5時に出発しました。国境ではそれぞれの入国管理事務所が隣り合いみんな和気あいあい、すんなり出入国の手続きも終わり、コパンの街へ入れました。昼には着いたのでさっそく街から歩いて15分の遺跡へ。

紀元後8世紀ごろ隆盛を極めたコパンにはマヤ文明の代表的な都市遺跡があり、暦の記述と王朝の記録のため作られた石碑や、神聖文字でコパン王朝史が刻まれた72段ある階段ピラミッド=写真、など、とても興味深いものが保存状態もよく残っています。石碑の彫刻は今だに鮮明にコパンの隆盛を物語り、2500以上のマヤ文字が刻まれた30メートルに及ぶ階段は貴重な文字資料として調査が続けられてき

ました。私はそれを見た時、その精巧さと大きさにびっくりしてしまいました。それにしても硬い石にここまで細かく文字を彫り続けるマヤ人の根気には、ただただ脱帽です。

遺跡を見た後、遊歩道を歩いてコパンの街に帰り、小さな街を歩き回りましたが、街には観光客はほとんどいなくてレストランも閑古鳥が鳴いています。ホテルもガラガラ、みやげ物屋のおばさんもひまそうにしています。その中の1軒でいろいろ話しましたが、おばさんはクーデターで客が来なくなったことを嘆き、クーデターを起こした軍部を非難します。

コパンは遺跡に来る観光客で成り立っている街なので当然の意見だとは思いますが、それにしてもクーデターなんかいったいどこで起きているの、というくらい平静で、確かにおばさんが「こんなに静かなのに、観光客よ、なぜ来てくれないの」と叫びたくなる気持ちはよくわかります。街の中心にあるマヤ考古学博物館にも足を運んだのですが、そのフィット・ララさんは「私たちが望むのはただ民主主義と平和です」と、悲痛な表情でホンジュラスの政情を嘆いておられました。ただでさえ中南米の最貧国のひとつだといわれているホンジュラスです。早く平和的な解決がなされないと、一般国民はどんどん窮地に追い込まれていくと感じました。



多文化子ども@大阪のニュース(2)

「ワールドトーク(多文化スピーチ大会)」

(大阪市教育局主催)

大阪市帰国した子どもの教育センター校で行っている母語によるスピーチ大会も、今年で13回目を迎えました。今年は昨年を上回る42名のスピーチ、3名の作文での参加となりました。言語はフィリピン語(13名)、英語(11名)、ネパール語(8名)、タイ語(2名)、ベトナム語(2名)、ルーマニア語(2名)、韓国語(2名)、スペイン語(2名)、モンゴル語(1名)、ロシア語(1名)そして台湾語(1名)でした。各母語教室で、母語支援者のスピーチ指導を受け、発表の練習も行っていたので、スピーチを暗記し、顔を上げて、しっかり発表できた生徒が多かったです。



内容は母国のこと、日本に来ることになったいきさつやその時の思い、日本語が分からず、学習内容が理解できず、くじけそうになったこと、友だちや先生に親切にってもらってうれしかったことなどでした。困難な状況の中でも前向きな気持ちが伝わってくるスピーチが多かったです。言葉は理解できなくても、周りの人たちの温かさは言葉を超えて子どもたちに伝わっているし、子どもたちはその温かいサポートから、様々な困難を乗り越える力を得ているのだと、改めて考えさせられました。

スピーチの後は、ネパール語母語教室の歌、タイ語母語教室の民族舞踊、阿倍野中学校フィリピン語母語教室の

バンブーダンスの発表でした。練習の成果が出ており、盛大な拍手が起きました。6チームに分かれて競い合ったO×クイズも盛り上がりました。生徒による司会も各母語教室でよく練習していたので、上手く進行していました。閉会のあいさつで司会者の「今日のワールドトークはどうでしたか」の言葉に、会場から「楽しかった!」と答えが返り、笑いが起きました。母語教室の活動の成果が分かる良いワールドトークになりました。(大阪府立阿倍野中学校 教員 浅野真希子)



研修会「“国際結婚”について考える」

(大阪府立学校在日外国人教育研究会主催)



9月9日(土)、府立桃谷高校にて、学校教員向けの標記研修会が開かれました。大阪府教育庁教育監の橋本光能先生を講師に、人権教育・在日外国人教育の視点から、多文化共生、特に国際結婚について考え、学ぶ機会となりました。

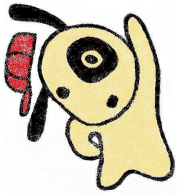
差別の現実直面した時、人はどのようにふるまうのでしょうか。橋本先生は、大学生の時に初めて差別の現実直面し、強い衝撃を受けたと話されていました。それ以降、どうしたらその歪みを正していけるだろうか、という問いかけを常に心に持ち、一人ひとりのちがいをだれもが尊重し合えるような環境づくりを大切にしながら、何十年と教壇に立ってこられた先生でした。

そんな先生のお話の後は、国際結婚をされた3名の方から、外国人のパートナーを家族に紹介した時のお話、お子さんに2つの名前を大切にしてほしいと思子育てをされているお話、2つの国にルーツを持つ自分を誇りに思えるようになるまでの心の軌跡についてのお話を聞かせていただきました。とりわけ自分の名前やルーツを受け入れるようになるまでの心の葛藤を聞いたとき、自分が毎日顔を合わせている生徒の中に、どれだけ同じような背景を持った子がいるのだろうかと考えました。

私も橋本先生のように、生徒に寄り添い、生徒一人ひとりのちがいに丁寧に目を向け、その子たちが個性を伸ばせるような、そんな環境づくりを大切にしていきたいと、強く感じた研修でした。

(府立東淀川高校 教員 楊知美)





大阪府立高校の特別枠校紹介 ⑦

～ 東淀川高等学校 ～

大阪府内には、帰国・渡日生徒を対象とする特別枠が設置された高校があり、『OKoTaC 通信』でも随時紹介をしてきました。今回は、2017 年度から特別枠校に加わった東淀川高校を取り上げます。 (編集部)

* * * * *

大阪府立東淀川高校はJRと地下鉄御堂筋線の新大阪駅のすぐ近くに 있습니다。今年4月から普通科専門コース設置校になりました。2年次からは「理系」、「文系」に加え、「看護医療」・「幼児教育」の2つの専門コースの、4つに分かれて学習します。理工系の大学・短大を目指す「理系」、法律・経済・人文科学系の大学・短大を目指す「文系」の2つに加えて、「看護医療」コースは、看護師や理学療法士などになりたい人のための、また「幼児教育」コースは、保育士や幼稚園教諭になりたい人のための専門的な学習を行なうコースです。

そして今年4月からは、大阪府で7番目の「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学選抜」実施校となり、外国にルーツのある生徒 14 名が入学しました。現在、中国、ネパール、フィリピン、タイの4カ国にルーツのある生徒が学んでいます。この生徒たちは日本語の学習や、社会・数学・理科・英語といった科目で日本語のサポートを受け、日本語の習熟を深めつつ、高校の教育課程を修得します。授業では、国語のかわりに「日本語」を学びます。現在、日本語の習熟度に応じて2つのクラスで日本語の授業が行われています。



9月2日 文化祭 閉会式での和太鼓演奏

他にも日本語の習熟度に応じて、やさしい日本語による社会、数学、理科、英語の授業を受けています。数学や理科では、日本語指導の経験の少ない先生も、カタコトの英語やイラスト、さらには身振り手振りも交えてのやさしい日本語で授業を行っています。月曜日の7時間目には日本語の学習を行ない、火曜日の7・8時間目には、中国・ネパール・フィリピン・タイの各言語を学習します。これらの授業では、言語に加えてその国の文化も学びます。水曜日の放課後は日本語学習の日となっています。

また、この特別入試で入学した生徒は全員「くろーばぁ」というクラブに所属します。このクラブの活動の中心は、自分のルーツのある国の歴史や文化等を学ぶことです。9月に行なわれた文化祭では、生徒たちがルーツのある国について紹介するポスターを作り、さらに独特の衣装や民芸品、遊び道具などを展示しました。そして文化祭の閉会式では、くろーばぁ生徒と一般の生徒が一緒になって和太鼓演奏を披露し、会場から大きな拍手が寄せられました。くろーばぁ生徒と同じクラスの生徒の参加があったことは、くろーばぁ生徒の友達の輪が広がっていることの証しだと感じられました。



8月 地下鉄ボランティアに参加

また夏休みには、大阪市営地下鉄の通訳ボランティア活動にも参加しています。さらに、9月 11 日には中国から日本を訪れている高校生の訪問を受けました。このときには、くろーばぁの中で中国にルーツのある生徒が通訳として大活躍しました。くろーばぁ生徒の中にはバレー、書道など一般のクラブに所属する生徒もいます。まだ1年目ですが、今後も様々な国にルーツのある生徒を受け入れ、くろーばぁ部が大きく飛躍していくことが、私たちの願いです。

〒532-0003 大阪市淀川区宮原 4-4-5 TEL 06-6391-2427

(大阪府立東淀川高等学校 教員 田淵 幸一)

イベント情報 ～おおさかこども多文化センターの主催イベント～

(下記2つとも、大阪府福祉基金地域福祉振興助成金事業)

『外国人家族のための 高校進学説明・相談会』

子どもは日本の学校に行っているが、親は日本の学校に通った経験がないので、高校や入試についてよくわからない。また母国の中学を卒業後に来日した いわゆる“ダイレクト”であるため、高校の情報が十分に得られない——そんな外国人家族のための進学説明会です。日本の学校システムや高校の種類、入試制度や必要経費まで、詳しくお伝えします。受験生だけでなく中学1、2年生の保護者の方もおいでください。

【日 時】 11月18日(土) 14:00~16:30 (受付13:30~)

【場 所】 国労大阪会館 1階ホール(大阪市北区錦町2-2) JR環状線「天満」駅下車 徒歩3分(環状線沿い)

【内 容】 大阪府の高校にはどのような学校があるのか、入学するにはどのようにすればよいのか？
公立高校・私立高校について、高校でかかる費用や、日本の教育システムなどについて。

※個別教育相談会もあります。

※中国語、英語の通訳あり。(その他の言語も対応できる場合があります。11月4日までに問い合わせてください)

【対象者】 日本語を母語としない家族、学校教員、地域の支援者

【参加費】 無料

【申込み】 子どもの名前、学校名、学年(年齢)、参加人数、言語、および通訳の必要な人は言語名を記入し、11月11日(土)までに、Fax または E-mail にて 下記まで。

★ ★ ★

外国にルーツをもつ子どもの教育支援セミナー

『“絵本を通して多文化に出会う”場づくり』 (大阪市立中央図書館共催)

学校や保育園・幼稚園で増加する外国にルーツをもつ子どもたち。そんな彼らが母語のおはなしを楽しめるように。また日本の子どもたちも、さまざまな文化にふれることができるように——外国語を取り入れた読み聞かせや、絵本をきっかけにした異文化交流など“絵本を通して多文化に出会う場”の実践、みんなで考えてみませんか？ 外国人のお友だちも、ぜひお誘いください♪

【日 時】 12月10日(日) 13:30~16:00 (受付13:00~)

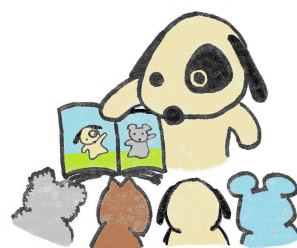
【場 所】 大阪市立中央図書館 5階 大会議室(大阪市西区北堀江4-3-2)
地下鉄千日前線・長堀鶴見緑地線「西長堀」駅⑦出口すぐ

【プログラム】 ・「多言語おはなし会」体験(5言語での読み聞かせをきいてみよう)
・ワークショップ「絵本を使って多言語・多文化を楽しむには」

【対象者】 絵本や異文化交流に関心のある人、学校・幼稚園・保育園教員、
図書ボランティア、地域の子育て支援者、日本語教室関係者など

【参加費】 無料 【定員】 50名(先着順)

【申込み】 名前、所属、住所、電話番号、メールアドレスを記入し、
12月3日(日)までに、Fax または E-mail にて 下記まで。



NPO 法人 おおさかこども多文化センター (OKoTaC) 代表 濱名猛志

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8階

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com URL http://okotac.org

郵便振替【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(セロキュウキュウ)

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824)

口座名義『NPO法人 おおさかこども多文化センター』

フリガナ: トクヒオオサカコドモタブンカセンター

